

2020年1月9日

<報道関係各位>

ギリアド・サイエンシズ株式会社

## ギリアド・サイエンシズ、 ロックフェラー大学より HIV 抗体ポートフォリオの ライセンスを取得

ギリアド・サイエンシズ（日本本社：東京都千代田区、代表取締役社長：ルーク・ハーマンス、以下「ギリアド」）は、1月9日に、ロックフェラー大学から臨床段階にある2つの薬剤 3BNC117 および 10-1074 を含む、HIV に対する広域中和抗体（bNAbs）のポートフォリオをライセンス導入したことを発表しました。これらの治療薬は HIV の治療や予防における長時間作用型治療薬、および治療をもたらす療法となる可能性があります。

HIV bNAbs は、もともと強力な抗 HIV 免疫応答を有する HIV 陽性者に由来する免疫療法の一つであり、特に潜在性ウイルスのリザーバーに由来する HIV を標的とするように設計されています。初期の前臨床・臨床研究は HIV bNAbs が HIV に対し強力かつ持続的な免疫応答を惹起することを示しており、他の長時間作用型治療薬との併用による治療または予防や、抗レトロウイルス薬の使用なしでの長期にわたるウイルス学的寛解をもたらす有望な新規のアプローチと言えます。本ライセンス契約により、アンメット・メディカル・ニーズに対するギリアドの革新的 HIV パイプラインに、更なる道筋が加わります。

「ロックフェラー大学の HIV に対する広域中和抗体の研究は進んでおり、早期臨床試験も極めて有望な結果を示しています。」と、ギリアドの HIV およびエマージングウイルス感染症担当のシニアバイスプレジデントであるダイアナ・ブレイナード（Diana Brainard, MD）は述べています。「生体特有の HIV に対する免疫システムを活かし、すべての HIV 陽性者のケアの革新と全般的な治療効果の改善をもたらすようなサイエンスイノベーションを今後も推進し続けます。」

「我々は、中和抗体が多くの HIV 陽性者の治療に変革を起こす可能性があることを示す広範な研究を積み重ねてきました。」と、ロックフェラー大学アソシエイト・バイスプレジデントのジャンヌ・ファレル（Jeanne Farrell, PhD）は述べています。

「我々は、当成果を含むその他の有望な発見が、アカデミックプログラムを患者に利益をもたらす可能性のある将来の製品として実現できる民間企業と提携することにより、ヘルスケアに結果を残すことにコミットしています。」

契約に基づき、ギリアドはロックフェラー大学の HIV bNAbs の全てのポートフォリオについて開発および商業化するための世界的独占権を取得します。また本契約では、ロックフェラー大学は前払い金、マイルストーン達成金支払いおよび対純売上

高のロイヤリティの受け取りの権利を有します。さらに、ロックフェラー大学は HIV 抗体のポートフォリオに関する非臨床および早期臨床研究を行う権利を留保します。

抗体 3BNC117 および 10-1074 a は治験薬であり、世界のいかなる国においても承認されておらず、安全性と有効性についても確立されていません。HIV または AIDS を治癒する薬はありません。

### **ギリアド・サイエンシズについて**

ギリアド・サイエンシズ・インクは、医療ニーズがまだ十分に満たされない分野において、革新的な治療を創出、開発、製品化するバイオファーマ企業です。会社の使命は、生命を脅かす病を抱える世界中の患者さんのために医療を向上させることです。カリフォルニア州フォスターシティに本社を置き、世界 35 か国以上で事業を行っています。ギリアド・サイエンシズに関する詳細は、[www.gilead.com](http://www.gilead.com) をご覧ください。ギリアドは 30 年以上にわたり、HIV 領域のイノベーターとして、HIV 感染症の治療、予防と治癒に向けた研究を行ってきました。世界には現在、1,200 万人以上の HIV 陽性者がギリアド社またはそのジェネリック医薬品製造パートナーが提供する抗レトロウイルス剤を服用しています。

ギリアド・サイエンシズ・インクの詳細については [www.gilead.com](http://www.gilead.com) をご覧ください。

ギリアド・サイエンシズ株式会社の詳細については [www.gilead.co.jp](http://www.gilead.co.jp) をご覧ください。

### **ギリアドの将来予想に関する記述**

本プレスリリースは、1995 年米国民事証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）で定義される「将来予測に関する記述」に該当し、当提携の利益が実現しない可能性を含め、いくつかのリスクや不確定要素などの要因に左右される場合があります。例えば、ギリアドがパイプライン中の他の臨床薬と照らし合わせ相対的に商業化が難しいと判断した場合、3BNC117、10-1074 やその他の抗 HIV bNAbs の開発中止の戦略的判断を下す可能性があります。その結果として、これらの HIV bNAbs の商業化が成功しない可能性があります。過去の事実以外全ての記述は、将来予想に関する記述とみなすことができます。これらのリスクや不確定要素、その他の要因により、実際の結果が「将来予想に関する記述」と著しく異なったものとなる可能性があります。将来予想に関する記述のみに依拠することのないようご注意ください。これらのリスクやその他のリスクについては、米国証券取引委員会に提出している、2019 年 9 月 30 日を四半期末とするギリアド四半期報告書（フォーム 10-Q）で詳細に説明しています。将来予想に関する記述はすべて、ギリアドが現在入手できる情報に基づいており、ギリアドは将来予想に関する記述を更新する義務を負いません。

###

ギリアドおよびギリアドのロゴは、ギリアド・サイエンシズ（Gilead Sciences, Inc.）またはその関連会社の登録商標です。